

# 清風会報

No. 71

## 巻頭言

### 探そう！生きがい

清風会会長 木村 英一

コロナ禍の二年目。皆さんは、どのように過しましたか。私は、感染しないようにと、三密にならないよう心がけて、農業に専念した一年でした。農業も栽培が難しく、脳業でもあります。巻頭言にも困り、私の栽培法を紹介します。皆さんも生きがいとなるものを探してください。

まずトマトの栽培です。苗は店で購入。大玉(桃太郎)二本、ミニトマト(色違いで)二本位。小石を鉢の下に敷き、赤玉土(小粒)と腐葉土を混ぜて入れます。育て方ですが、雨除けのビニ

ル屋根は、無理なら露天でも大丈夫です。水はやらないと思つていけません。植物に水は重要です。実や樹にかけないように根だけに十分やります。適度の水で、良く育ち花が咲くので実が沢山つきます。水と肥料(半月に一回)トマトトーンを霧吹きで噴霧してやります。二度付けは、実が奇形になるので、注意します。

樹が育ってきたら、ビニール紐を巻きつけて、吊るすようにします。収穫したら葉を落し、徐々に樹全体を下げます。わき芽は、一本育てて二本立とし、残りはどん

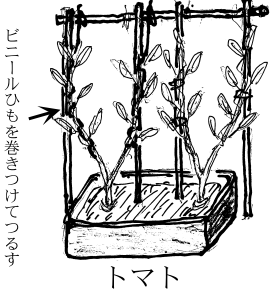
どん切り落します。実より下の葉も同様に、すべて切り落します。時には混み合う葉も先端を半分切つたりします。黄色くなつた葉も同様です。収穫までに約二か月かかるので、五〜七月は、トマトトーンを毎日つけるようにします。

次は、ミニトマトです。わき芽は、三本育て全体で四本立にします。後は、大玉と同じで、雨にあたつても大丈夫です。次は、ナスですが、樹が育ってくる、Yの字になります。そこから下の葉は切り落します。一

二つ目の実は、ピンポン玉位で切り落します。ナスは、照り作と言われますが、水はしっかり与えましょう。八月初旬頃に、一本だけでも枝を切りつめて、新しい枝を育てると秋ナスが収穫できます。

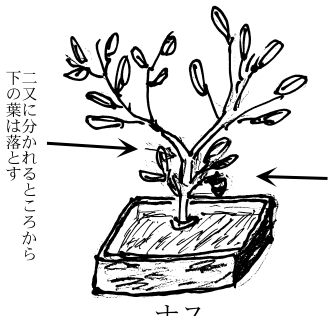
植物栽培の基本は、下葉を切り落して、風通しを良くすることと根腐れしないような水やりです。畑の場合は、トマトもナスも畝を高くし、穴あきマルチで暖をとります。皆さん、今年の野菜作りの参考にしてみてください。

ビニールでつるす方法  
樹がのびたら下げていく  
棒に8の字に  
くくりつける方法



ミニトマトを巻きつけてつるす

トマト



二又に分かれるところから下の葉は落とす

ピンポン玉位で切り落とす

ナス

## 会員の動向

### 祝叙勲

大塚 弘  
磯田 正夫  
富田 保雄

### 祝米寿

大塚 弘  
宮澤 清  
出浦 二三男  
富田 保雄

### 祝喜寿

服部 義雄  
近藤 信義

### 逝去

磯田 正夫  
山下 一彦

# おめでとーいございます

## 出会い

富田 保雄

## 叙勲にふせて

この度の叙勲により瑞寶雙光章の榮に浴し、私にとつて身に余る光榮なことと思つております。顧みれば多くの方々との出会いにより、ご指導していただいたお陰で今回の榮譽を賜つたものと感謝申し上げます。

人との出会いは不思議なものです。私の教職人生は出会った人たちに恵まれた四十二年間でした。スタートは秩父第二小(現花の木小)の事務職でした。校長先生から「教員になりなさいよ。」と言われ、通信制で四年

間学び、花の木小の教員としてスタートしました。校長室に呼ばれ「富田君、待つてたよ。」と笑顔で声をかけていただいたことが忘れられません。尾田蒔小では今では考えられませんが、休日にクラスの子供たちと武甲山、伊豆ヶ岳、定峰峠にハイキングに出かけたこともありました。新座八石小で三年間の勤務後、教頭として倉尾小に戻りました。秩父市教育委員会、横瀬小教頭を経て、飯能北川小、西川小に校長として勤務しました。西川小では教育長に校歌の作詞をお願いし、校歌作成に関わったことが思い出されます。秩父市教育委員会学校教育課長時代では、パソコン導入や秩父一中共同調理場建設、そ

して、永年続いた臨海学校を廃止するため、PTA会長の皆様に了承していただいたことがありました。また、教育長が議事会会期中に亡くなるというショックな出来事がありました。後には多くの賛同者と共に教育長の遺稿集を作成しました。平成六年、南小で定年退職を迎えました。職員にも恵まれ、気持ちよく退職することができました。退職後も学校教育指導員や保育所での子供相談員等経験させていただきました。神社の総代など、地域の方々との交流もい出会いの場となりました。改めて、人との出会いは不思議なもので、恵まれた出会いばかりであったと感じます。あつという間の八十八年でした。末筆になりましたが、会員皆様方の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

## 若い心のため

服部 義雄

## 喜寿を迎えて

過日は、喜寿のお祝いをお祝いありがとうございました。自分なりに、喜寿とは気が老ゆることなく若い気持ちで生活し続ける節目と考えています。さて、四月(ちよつ)としたことがきつかけで、四十年以上離れていたアマチュア無線の世界(電信)に戻りたいと思ひ立ちました。それから、毎日のように欧文モールス符号の聞き取り練習を始めました。小設備・小電力ではモールス通信が有利です。若い頃は、符号の録音テープを再生しながらの練習でした。しかし、今の世の中インターネット上にたくさん練習教材があり、取り組みました。

七月下旬には、自分で決めた合格点、つまり初歩的な「一分間十単語」の聞き取りに達しました。「今だ!」と、機器の購入と開局を決意し、ネットで知ったM町の電気店にお世話になりました。おかげで、八月中旬には「開局」。ワツチを繰り返し、九月中旬に八王子の局と初交信。その後北海道から九州まで国内の全エリアと交信。ロシアとの初交信後は、夕闇の中、小さな軒先のアンテナを褒めてやりました。現実のお空は「一分間二十単語」以上の速さで交信していますので、まだまだ駆け出しです。嬉しいことに、速い局も自分が聞き取れる遅さの打電をしますと、同じ遅さで返電してくれます。アマチュア無線家の温かさに触れることも度々です。今後は「一分間二十単語」の正確な聞き取り練

# 追憶

## 近藤 信義

習と共に、海外の局とも「小電力交信」を楽しんでいきたいものです。

退職校長会秩父支部様並びに秩父地区元現校長会様より喜寿の御祝を頂戴致しました。ありがとうございました。

さて、今から二十数年前のことである。山の中の小学校に勤務していた。小規模校のため、校長も給食後の校庭清掃の指導担当になった。まだ三年生になったばかりの素直で純真な子ども達。除草や落ち葉掃きなどをしながら色々な話ができた。それは、私にとつての至福の一時でもあった。A君「家のじいちゃんは何に蝶が飛んでくると捕まえて殺してしまうんだ。」私「殺すのか。かわいい

そうだね。」

A君の言葉に他の子ども加わり活発な話し合いとなった。当時は、命の大切さが盛んに叫ばれていた時であった。退職した年に四坪ほどの畑に野菜の種を蒔いた。しかし、青虫により全滅。A君の言葉の意味が年を経て漸く分かったのである。

また、ある時は、

B君「校長先生、褒めて子どもを伸ばすこともできるんだよ。」

B君は、そのことを祖母から教えて貰ったらしい。数日後、校舎の外で仕事をしていた私の傍らをB君が通りかかった。「校長先生、精が出ますね」と言うではないか。B君のその一言から、私にも一層やる気が出たのは勿論のことである。古希を過ぎた頃から少々体調を崩してしまった。通院と共に温泉療養も効果があると聞いたので、

コロナ禍の波を掻い潜って群馬や山梨の温泉地に出向いている。特に、山梨は大学の四年間を過ごした地であり、心の故郷でもある。時には旧友と語り明かし、時には母校にも立ち寄って、後輩達の姿に昔の自分を重ね合わせて懐かしんでいるのである。



# 会務報告



### ◆主な行事

- ・ 4月14日 第一回理事会
- ・ 5月15日 定期総会(中止)
- ・ 5月15日 第一回広報委員会
- ・ 6月4日 第二回広報委員会
- ・ 6月29日 第一回旅行委員会
- ・ 7月1日 第三回広報委員会
- ・ 7月12日 第四回広報委員会
- ・ 8月5日 第二回理事会
- ・ 10月4日 第五回広報委員会
- ・ 10月12日 「彩の国教育の日」協賛  
現職・退職校長会秩父地区教育推進会議(中止)
- ・ 11月1日 第六回広報委員会
- ・ 12月7日 第二回旅行委員会
- ・ 1月12日 第七回広報委員会
- ・ 2月4日 第八回広報委員会
- ・ 2月8日 第三回旅行委員会(中止)
- ・ 3月8日 親睦研修旅行(中止)
- ・ 3月 第三回理事会(中止)

# 生きがい探訪 会員からの近況報告

思いつくままに

野田 眞

新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い社会的な行動制限が緩和・解除となり、活気が戻りつつある昨今である。(十二月現在)  
私も解放感を抱き、最近では泊を伴う旅行やマラソン大会出場、観劇、親戚等との交流、外食などの機会が増えている。勿論、相手は見えない敵ゆえ油断は禁物であるが、解放と開放を同時に味わえる喜びは大きい。  
コロナ禍の下で私が日課にしていたことは、生家の土地の保全活動、野菜栽培、三味線の練習は月二回クラブに通っている。中止もあったが…。  
雨天日や夜間などに行う

読書、今は戊辰戦争に関する内容が殆どである。教科書では知り得ない往時の歴史が多々あることに驚かされる。夜はほぼその日の出来事などをパソコンに日記風にメモをとる。遡って書くことも多い。そして、ジョギング。コロナ禍で走行距離が伸びている。時にマラソン参加。ジョギングを止めない効薬にしている。思えば常にタイムリミットを気にしながら走っているのが馬鹿といえれば大馬鹿である。最初のマラソンを完走できていなかったら続けることはなかったと思う。  
私の日常はそんなところである。「生きがい探訪」とは程遠い生活である。ぐうたら生活と言う方が当たっている。三回

目のワクチン接種が来期の三月より開始されるとのこと。コロナの完全終息を願い、もうひとつの日常であった先輩や同僚、親友等の方々との親睦会や懇親会の早期再開を楽しみにしながらペンを置こうと思う。思いついたことを書いただけですが、元気に生活しております。会員の皆様方におかれども、益々のご健勝であられますようお祈り申し上げます。

ふりむくな  
ふりむくな

大倉 福男

「ふりむくなふりむくな後ろには夢がない。」これは寺山修司さんの言葉です。寺山修司さんは才能豊かで大変面白い方です。この言葉と同じかどうか分かりませんが「バック・トゥ・ザ・フューチャー」未来に戻る」という変な言葉があります。

未来に戻るのだから、ふりむいてはいない事になります。

すこし「ミーハー」になります。キャンデーズの伊藤蘭さんが再び歌手としてステージに立っているとのこと。彼女らの歌声は若い時によく耳にしました。わたしも及ばずながら「先生」と呼ばれる立場になっていきます。二十名ちかくの美女(当時の)に囲まれて講師をしています。時には真面目に文学論もやりますが、面白い珍答も出てきます。例えば「○賞の審査員は選ばれた人がやるが、私たちはこの会を自分達で選んでやっている。」とか「よく夏痩せという事を聞きますが、一度なってみたい。」とか「いやな事や困ったことがあるとひとりで啖くんです。そうするとすつきりするんです。」どちらかという、彼女らの

人生訓のようなものかと思いますが、かつての乙女たちの囁きも聞こえてきます。とても愉快です。  
「先生といわれるほどの馬鹿じゃなし」という川柳もあります。お嬢さん方に「先生」と呼ばれて悪い気はしません。  
「過去にとらわれず、未来を恐れず、今を生きる。」こんなところですよ。



## 下農の農業

長島 茂

日々農業に取り組んでいる。自分ではいつぱしの専業農家のつもりであるが、先輩の農業従事者には「まだまだ趣味の領域から脱していない。」と言われていて。作付面積の割には収穫量が少ない、品質のよい農産物が少ない、なにしろ畑に雑草が多すぎるなどがその理由のようである。上農・中農・下農の中の下農にあたるのであろう。これから下農の農業について記していきたい。

まず米作りである。およそ二十五アールの田のうち3/4のうるち米、1/3にもち米を植えて付けている。うるち米は自家用消費で余れば米粉で直売所に出荷している。もち米はほとんど精米して出荷している。

次に野菜作りである。二月になるとビニールハウス内に温床設備を設置し、そこで野菜の発芽を早めている。

初春になると、温床栽培した苗を畑に定植するが、寒さ対策としてビニールトンネルが欠かせない。五月の連休が過ぎると、農事暦に従っての種まきや温床で促成した野菜の収穫が始まる。収穫した野菜のほとんどは直売所に出荷している。

野菜が大きく生長する夏場は病虫害や雑草がひどくなるのでその対策が大変である。いろいろな野菜を栽培していると、つい病虫害や雑草まで目が行き届かなくなってしまう。また、獣害にも悩まされる。

毎年「今年こそは」と気持ちを新たにしているが、なかなか思うようにいかない。

今年古希を迎えた体に

は農作業もきつくなってきた。そろそろ趣味の農業に切り替えていくころなのかもしれない。

## 退職したら退職してから

山口 榮子

私が退職したら・・・。「両親を温泉や近くの観光地に連れて行こう。米作りや野菜作りと一緒にしたい。」と思っていました。

子どもの頃、家族で旅行という習慣は我が家にはありませんでした。したがって、親子全員で出かけたという思い出は一度もありません。仕事を辞めた父とは愛知万博に行きましたが、母は車酔いするので、近場に行くくらいでした。一度両親を日光へ連れていったことがありました。その程度でしたので、親子でゆっくり旅行することを楽しみにしていました。

自分の親は、もう少し長生きすると漠然と思っていました。退職する二年前に突然母が、その一年後に父が逝ってしまいました。「退職したら・・・」の実現は残念ながらできませんでした。

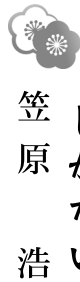
退職後は教育相談員や学校教育指導員の仕事をさせていただきました。仕事にはやり甲斐を感じていました。しかし、数年前から患っていた変形性股関節症が悪化し、杖を使う生活になりました。畑仕事は、叔父や友人にかなり手伝ってもらっていました。私のそんな様子を見かねた友人が、股間接手術に長けた先生のいる病院の情報を知らせてくれ、三月に手術を受けました。初めてのことで不安でしたが、無事終わりました。今では以前とは比べものにならないくらい歩くことも畑仕事も普通に行うことができます。

るようになりました。今でも叔父や友人の手伝いを借りていますが、不安なく自由に動けることの幸せ、健康のありがたさを日々実感しています。まだまだやりたいことがあります。健康に留意して一つ一つ実現していきたいです。



## 楽しいこと

## しかない



笠原 浩

六才の孫がいる。毎日のこども園の送迎は私の役目であり、孫とふれあう楽しい時間ともなっている。

先日もこども園の予定を嬉々として話してくれた。「楽しいことがいっぱいあっていいね。」と言うと、「うん、楽しいことしかない。」

六才の子供はそんなものなのだろうが、これは少々胸に刺さった。

昨年十一月、念願のオールタイムフリーの身となった。やりたいこと、やらなければならないこと満載である。「今日行くところ」どころの話ではない。忙しいのだ。

まずは、旧宅の庭や植木畑の伐採である。樹齢五十年を超える黒松のほか雑草、雑木も繁りまさ

にジャングルである。

チエーンソーの扱いもめきめき上達し、春にはきれいになった。

次は旧宅の片付けである。かわいいジムニーは軽トラに換え、クリーンセンターや古紙回収業者には、まだあるんですかと言われるほど通った。

昔からのものがたくさんある上、本や私物もまったく片付けてこなかったで、あらゆる物に様々な思い出が甦る。選別時間のかかる作業となり、まだ終わっていない。

趣味の釣りや庭いじり、野菜作りなどは十分楽しんできたが、孫の一言が胸に刺さったのは、どこか満たされないものがあったのだろう。

コロナの最大の脅威は人の関係を断絶することというが、人や社会との繋がりの実感は、私たちに欠かせないものと改めて感じさせられた。

自宅前の川沿いに父や地域の人達が植えた枝垂れ桜がある。春には遠方から訪れる人も多い。私も桜を植えてみよう。

成長するものを見るのは楽しい。子供だけでなく、桜が育つのをみるのも楽しいことだろう。

## 水泳と私

江田 光男



水泳と私との関わりは六十年になる。

幼少の頃から、夏になると兄たちに連れられて毎日のように近くの川で水遊びをしていた。小学一年生の時には、犬かきのようなクロールで十メートルくらい泳げるようになっていた。四年生の時、学校にプールができる。水泳の授業は私が唯一活躍できる時間となり、水泳が大好きとなった。それがきっかけで、それまで何事も消極的であった

私が少しずつ変わっていったのを覚えている。

中学校で水泳部に入部し、本格的に水泳を学んだ。私が所属した水泳部は、当時県大会で常に上位に入賞する強豪チームで、OBによる練習の厳しいことで有名であった。そのOB鬼コーチの指導のお陰で、四泳法ともある程度の泳力がついた。

その後も機会があるごとに水泳を続け、教職に就いてからは、趣味と実益を兼ねて週に一・二回、公営の温水プールで練習した。それは運動不足だけでなく、仕事等のストレスも解消してくれた。

水泳は、健康や体力づくりに適した運動であると言われ、怪我等のリハビリにも用いられている。私がこれまで健康に過ごせたのも、水泳のお陰だと思っている。

退職して五年、週五・六回水泳が出来る環境に

なり、毎日のリズムの一部になっていく。これまでに、力強く速い泳ぎをめぐらしてきたが、最近では、水と一体となる気持ちで、ゆっくり長く泳ぐように心がけている。そうすることで瞑想をしているような感覚になり、とてもリラクセスできることがわかってきた。

私にとって水泳は、健康と体力、そしてくつろぎを与えてくれる生涯のスポーツである。



# 教育現場からの報告

## ICT機器を活用した

### 主体的で対話的な授業づくり

ICT機器の効果的な活用を目指して

長瀬町立長瀬第二小学校校長 **神田 卓也**

#### 一 はじめに

近年、「科学技術の急激な進歩」、「コロナ禍における新しい生活様式への対応」、「GIGAスクール構想の実現に向けて」等、児童を取り巻く環境が、日々変化している。

このような状況の下、本校では、児童一人一人に貸与されたタブレットを使用し、授業を充実させる手段として活用する

研究を進めている。教職員がタブレットを利用する基礎的な技能を学ぶ研修、また、実際に授業でタブレットを活用した実践的な研究を行っている。



タブレット

#### 二 本校のICT環境

令和二年度末に、一台のタブレットを導入した。本格的な活用は、今年度からである。タブレットは、クロームブックを用いている。授業では、主にグーグルがWeb上で提供しているアプリケーションを利用して

#### 三 教職員研修

教務主任が中心となつて、タブレットの操作方法について研修を行った。

#### 【研修内容の例】

- ・ グーグルドライブ
- ・ グーグルジャムボード
- ・ グーグルミート
- ・ グーグルフォーム
- ・ スクールタクト
- ・ 写真・画像の活用
- ・ 音声入力

#### 四 実践事例

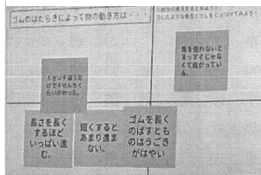
(一) 三年生 理科「風やゴムで動かそう」

【ジャムボードを用いた情報の共有】

前時に、ゴムの働きを用いて動く車について実験を行った。ゴムの長さや本数を変えたときの車が動く距離を調べた。

本時は、「ゴムの働きによって、物の動き方はどのように変わるのだろうか。」という課題のもとと学習した。実験結果をもとに、ゴムのはたらきと物の動き方に関する自分の考えをジャムボードの付箋機能を用いて記述し、学級全体で共有した。

ジャムボードの画面



情報を共有



(二) 五年生 算数「三角形と四角形の面積」

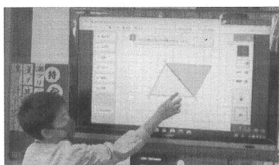
【アプリを用いて、図形の変形をタブレットで確認】

三角形の面積の求め方を考える授業では、タブレット上で三角形を変形して面積の求め方を考え、式や言葉を加えて自分の解決方法を紙に記録した。発表・練り上げは主に紙を用いたが、図形の変形方法について、モニターで確認した。タブレットの活用により、図形の移動・等積変形・倍積変形について、動的に学ぶことができた。

タブレットを使って自力解決



モニターで説明



#### 五 授業における活用例

- ・ プログラミング教育
  - ・ 調べ学習
  - ・ 学習成果の発表
  - ・ 朝顔・野菜の観察記録
  - ・ ローマ字の学習
  - ・ 理科の実験結果を集約
- 六 成果と課題
- (一) 成果
- 児童も教師も、タブレットを使う技術が身に付いてきた。また、授業でタブレットを使いながら、「タブレットで何ができるのか」「授業のどの場面で使えるのか」実践的に研究を進めた。学びの道具として活用する意識や態度が向上した。

#### (二) 課題

今後授業実践を増やし、活用事例や効果的な活用場面・活用方法について情報を蓄積していきたい。また、他校の実践について更に情報を集めて、ICT機器を効果的に使う方法について知見を広め、指導を充実させたい。

# 生き生きライオン

## 今 先人の足跡を 後世に

### 中 紀 雄

郷土の歴史や民俗の研究は、資料調査が本来である。加えて、大正から昭和初期に活躍された人達は、私に対する指導者でもある。(高齢の方には、亡くなられた方もおられた。)私の研究題材「鉱山と索道・養蚕信仰・分校の設置と非定住製炭者・忍藩秩父領の薪炭生産・長尾景春の伝承と道灌との抗争」に関わる人達の足跡をたどり、聞き取りや現地の遺構調査を進め、写真に収めた。

時には、聞き取りは研究の本筋からそれで、時間を忘れ、「若い時の思い出や、地域の移り変わり、家族の事など」思い

もよらぬ感動にしばしば浸る事があった。

今、公民館の郷土学習教室は、写真・図表等を挿入し、受講生の皆さんに如何に楽しく伝えるべきか、常に試行錯誤している。また、経験豊かな受講生が多く、逆に教えられ楽しく学んでいる。

これからもできるだけ研究を通し、先人の「聞き書き」を糧にして後世に伝えていきたい。



八丁峠の索道のやぐらの遺構

## 聖火ランナー

### 再び

### 鈴木 秀太郎

「園長先生、鬼ごっこしよう。」「よし、おいかけろぞー。」

園庭に出ると、子供たちから遊びの誘いをよく受ける。

退職後、皆野幼稚園長として勤務する中、そんな元気な子供たちと一緒に走りたい、との思いから応募した聖火ランナー。園児数の減少に歯止めをかけ、園をアピールする絶好の機会を得た。しかし、聖火リレーにかげられた制限により、子供たちとともに走るという夢は叶わなかった。

聖火リレー当日は、町内小中学生と、私の似顔絵を描いた自作のうちわを手にする子供たちの応援を受けて、無事に聖火を繋げることができた。それにつけても、一緒

に走ることができなかつたことが心残りではなかつた私は、運動会でその夢を実現させることとした。長年の親子競技「めざせーオリンピック」の入場時、トーチを持つ私の後に続いて、十四人の年長児が自作のトーチを高く掲げ、みんなに見守られながら一緒に走ることができた。コロナ禍の中の運動会だったが、オリンピックイヤーに行われた運動会として、いつまでも子供たちの心に残ることを願っている。



## 編集後記

寅年の人は正義感が強く、たとえ逆境にあつても立ち向かう強さを持っているといわれる。令和四年は、優しいトラを表す「壬寅<sup>みずのえ</sup>」で、家族を大切に<sup>みずのえ</sup>して他人にも心を開くとよい年になるという。辛く厳しい冬はいずれ終わり、暖かい春が来る。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる。それが「壬寅」という。コロナ禍の「辛く厳しい冬は終わり、暖かい春」が世の中に行き渡る年であることを心より願っている。

会員の皆様のご健勝ご多幸を祈念すると共に、第七十一号をお届けします。

清風会(第七十一号)  
発行 令和四年三月一日  
発行者 会長 木村英一  
小鹿野町小鹿野六四〇  
清風会事務局  
印刷所 秩父市黒谷一〇三六  
(有)萩原印刷  
☎〇四九四二四一四二六